

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会(議長を除く17人の議員で構成、委員長は菊池由紀夫議員、副委員長は佐々木大郎議員)は、条例6件、予算9件、その他4件について付託を受け、審議を行いました。今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全19議案が原案のとおり可決されました。

遠野市景観資源の保全と再生可能エネルギーの活用との調和に関する条例について

問 条例の制定にあたり、景観資源保全と再生可能エネルギーとの兼ね合いで提案に至った経緯は。

答 本市は新エネルギービジョンを作成し、再生可能エネルギーを推進するが、環境保全にも調和しながら進めて行かなければならない。このことから、遠野市新エネルギービジョンとの条例は両輪であり、ベストバランスを図っていく上で提案したものである。なお、罰則規定は設けていないが、市の事情等に配慮いただき協力を求めている。

問 条例の定める事業区域の面積が3千㎡を超える事業に摘要とあるが、この面積の根拠は。

答 都市計画区域内地域は3千㎡以上が開発行為の申請対象とな

市税のコンビニ納付開始の時期は

問 コンビニでの市民税納付に関する取り組み状況は。

答 現在、市の政策会議で協議しており、平成27年度を準備期間とし、収納代行業者の決定や納付方法等の詰めを行い、平成28年4月からの導入を目指して進めていく。

後方支援資料館整備事業について

問 具体的内容は。

答 官民一体で展開してきた後方支援活動の膨大な資料を展示し、後世に残していくため、防災センターの駐車場の前に44坪のプレハブの仮設展示場を設置する。



官民一体で取り組んだ本市の後方支援活動の情報発信が期待される

問 内容、時期について慎重に検討した方がよいのではないかと。平成27年3月に仙台市を中心に国連防災世界会議が開催され、世界各国から防災の関係者が集まる。当市への視察も予定されており、それを見据えて取り組むものである。

答 湿気等は、エアコンや換気設備で対応したい。

問 展示方法について、外国語での説明表記は。

答 英語の表記、英訳文をつける。

市民センター大規模改修におけるバリアフリー化は

問 バリアフリー化は改修工事にとこまで反映されるか。

答 3年のリース契約を計画している。

問 展示期間は。

答 算されるが、収穫時期、主食用米への混入防止等に課題が多く、JAでは来年度から飼料用米も主食用品種で対応する方針であり、市としても一体的な取り組みとして推進する方向で協議を進めている。

除雪のあり方は

問 運行基準・作業の流れは。

答 積雪深は10cm。主幹線がメインで、次に準幹線、最後に足元道路の順。

問 根雪の除排雪計画を事前に情報提供すれば、市民の協力が得やすいのでは。

答 市が機械・オペレーターを手配し、地元で補助をお願いするというようなモデル地区を募る。その効果・問題等を総合評価し、新たな市民協働による除雪対策を進めていく。

学校給食の食材の安全性について

問 食材の残留農薬に対する検査体制は。

答 残留農薬検査は実施していないが、給食センターで扱っている野菜は、農薬管理が行き届いている市内の産直等から購入している。また、保健所の抜き取り調査でも、農薬が基準値超の野菜は入ってきていないので、食材は安全だと認識している。

問 常に施設内で残留農薬検査ができる体制を構築し、抜き打ち的に実施するべきでは。

答 学校給食の衛生基準では、検査は年に一回であり、県からの要請を受けて実施する規定になっているが、来年度からは進んで検査を行い、結果についても公表し、安全な給食を提供する。

死亡牛処理業者の倒産による影響と今後の対策は

問 営業停止以降、死亡牛の搬送ができません。保管の期間は、ホダ木チップの焼却を前提としており、焼却開始の時期が未定のため、答えられる段階に至っていない。

問 畜産県岩手を掲げ、重点施策として推進しているところからも、他県に依存することなく整備の必要性は認識されており、

問 飼料用米の需要は、まだまだ増加傾向にあり、JAと一体となって確実に販路に結びつけていく流れをつくっていききたい。

問 米価下落に対する支援策の検討について

問 米の作付が拡大すると思われるが、販路の確保対策は。

問 米の作付が拡大すると思われるが、販路の確保対策は。